

	現状	課題	支援策
不登校の未然防止	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員による日常的な心のケア ・SCやSSWのカウンセリングによる児童生徒の心のケア、教員のカウンセリング能力の向上 ・小中、中高の校種間連携による情報共有及び指導改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営、生徒指導等の手法の継承及び、教員個々の指導力の向上 ・早期対応への学校の組織的対応の仕組みづくり及び支援計画の策定 ・家庭への支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童生徒支援のハンドブックの作成や研修等による教員の資質の向上 ・組織的な対応や支援計画の策定を行う学校体制づくり ・情報提供や相談対応等、保護者に寄り添った支援の充実
休みがちな児童生徒への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・教員や心の居場所サポーターの個別対応による早期解決 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員だけでは十分な対応が困難 ・心の居場所サポーターの効果的な配置及び活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・SCやSSW等の専門家による見立てや支援計画の策定 ・心の居場所サポーター等の効果的な支援の充実
不登校児童生徒への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・全中学、高等学校へのSCの配置による、不登校の解消 ・小中高へのSSWの配置又は派遣により、学校と福祉関係者、関係機関等との連携の推進 ・相談窓口としてトータルアドバイスセンターを設置し、不登校児童生徒や保護者の悩みや不安を解消 ・教育支援センターが市町の不登校児童生徒支援の中核となり取組を推進 ・民間施設6施設を府認定フリースクールと認定し、学校、教育委員会、家庭と連携した教育活動等を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員への不登校児童生徒支援の考え方の理解の浸透 ・SCやSSW、心の居場所サポーターの配置の充実や効果的な活用の推進 ・SNSを通じた適切な相談窓口にアクセスできる取組の検討 ・的確な支援計画策定に向けた専門的見地からの見立て ・支援にあたっての専門家とも連携できる仕組みづくり ・小中学校間での一層効果的な連携の推進 ・市町（組合）が設置する教育支援センターの機能充実・拡充 ・教育支援センター職員の専門性の向上や専門家の配置 ・教育支援センターや民間施設等をはじめとした、個々の子どもの状況に応じた適切な学びの場の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校復帰だけではなく、社会的自立を目指す支援の理解等に向けた管理職も含めた研修（上記ハンドブックを活用） ・SCやSSW等の配置の充実や効果的な活用 ・個々の子どもの状況に応じた支援計画策定に向けた仕組みづくり ・SSWの人材育成や人材確保 ・SNS等を活用した相談窓口の試行など教育相談体制の調査研究 ・医療や福祉機関などの関係者を交えた会議など、家庭支援の枠組みの充実 ・校種間の連携について、一層効果的な連携を推進 ・教育支援センターへのSCやSSWの配置、ICTを活用した学習支援などの新たな方策の実施など、機能充実・拡充に向けた市町（組合）支援 ・府内の子どもたちが通所できる民間施設について周知 ・民間施設と学校や教育委員会との連携を推進

「ひきこもり」の現状と課題への対応

- 「ひきこもり実態調査」の結果において、ひきこもりのきっかけとして、「不登校」が最も多くを占めている。
- 引きこもりがちな生徒について、中学校卒業後の適切な支援に繋がっていないケースも多く見られ、継続的に支援する仕組みづくりが必要。
- ひきこもり防止の観点から、中学校在籍時から卒業後も支援が必要となる可能性が高い子どもの状況把握や、卒業後も支援が必要な子どもについて早期支援特別班に繋ぐ等のコーディネートを担う核となる人材の配置